

2022年度
「NGO講演会等助成レポート」

一般財団法人 ゆうちょ財団
国際ボランティア支援事業部

当財団では、NGO 海外援助活動助成を受けている NGO が、学校、地域団体等で国際協力及び国際支援の意識醸成を図るための講演会等を開催し、当該 NGO の海外での活動状況等を説明する場合に、その経費の一部を助成しております。

2022 年度は 3 団体へ助成いたしました。これらの団体からの講演会のもようについての報告を以下にとりまとめました。

特定非営利活動法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会

助成した活動の概要

団体が 2009 年から取り組んでいる活動「Mother to Mother」は、「我が子を学校に通わせる収入がほしい」というカンボジアの母親と、「幼稚園や小学校で使う布小物の準備が大変」という日本の母親の「布小物縫製」を通して助け合う取り組みです。こうした活動に対して、ゆうちょ財団は、2017 年度から 2021 年度までの 5 年間にわたり助成を行いました。

■支援活動：最貧困家庭の母親達による、子どもの教育費用を得る為の縫製活動「Mother to Mother」の強化事業

■実施地域：カンボジア シェムリアップ州バンテスレイ郡



(写真 1) カンボジアの母親たちの縫製作業の様子



(写真 2) 日本の幼稚園での縫製製品販売風景

イベントの状況

■開催日等

1. 開催日：2022 年 6 月 16 日（木）
2. 実施方法：オンライン会議
3. テーマ：「Mother to Mother 活動報告会」
4. 参加者：日本 39 名、カンボジア 12 名、カンボジアのお母さんたち
5. 内容：意見交換会

■イベントの概要

今回のイベントに参加した私立啓明学園高校は、団体に協力している学校の一つで、「STICHES FOR RICHES」という活動をおこなっています。これは、生徒たちが中心となり布を集め、裁断し、カンボジアへ送り、それをカンボジアのお母さんたちが巾着やバッグに縫製して、それらを日本で生徒たちが文化祭で販売する活動です。売上金は団体を通じて制服や文具の購入費としてカンボジアの母親達に支払われます。

今回のイベントは、「STICHES FOR RICHES」に取り組んでいる啓明学園の高校生及び普段この活動とはかかわりのない同校生徒約 40 名とカンボジアで縫製にあたっているお母さんたちとをオンラインでつなぎ、新型コロナウイルス感染症の流行のために 3 年間対面で伝えることができなかった活動に関し意見交換等を行いました。

①アジアの子どもたちの就学を支援する会理事長による啓明生への話

Mother to Mother の一環として取り組んでもらっている啓明学園の活動について話しました。

②啓明学園による普段高校で取り組んでいる活動報告

パワーポイントを使って生徒がどのように活動に取り組んでいるかを具体的に報告しました。

③カンボジアのお母さんたちの日ごろの活動の様子

代表のお母さんによる簡単な報告と、写真による生活の様子を報告することができました。

④啓明学園の生徒さんからお母さんたちに質疑応答

カンボジアでの仕事の進め方、仕事量、どのように役立っているかなどを質問した結果、活動がとても役立っている様子が伺えました。

⑤カンボジアのお母さんたちから啓明学園の生徒さんへの質疑応答

「売れていますか」という質問があったので、実際に使っているカバンを見せることができました。



(写真 3) 啓明学園高校の生徒さんたち



オンライン接続



(写真 4) カンボジアの母親たち

■参加者の感想

- ・前々から参加したかったが、ボランティア活動の報告会があると先生から聞いて友達と参加しました。とても素晴らしいシステムだと再認識できると同時にぜひかかわりたいと思いました。
- ・自分たちの行っている活動の再確認そして改めてこのボランティアの大切さを学びました。私たちのボランティアが役に立っていることが実感できてやりがちな感じ感極まって泣きそうになりました。
- ・この会をきっかけに私も活動に参加して文化祭などで販売しカンボジアの力になりたいです。
- ・イメージでしか現地の状況を知らずに本当に自分たちの行動が役に立っているのかどうか疑問に思う時があったが、このような機会で見地の人の声を聴けるのはありがたいです。
- ・写真などでカンボジアの様子を理解することができた。私もカンボジアに行ってみたいと思いました。

特定非営利活動法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会

住所: 〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地(学校法人多摩川学園 多摩川幼稚園)

URL: <https://www.asap-cambodia.org/>

助成した活動の概要

団体は、30 年近くに及ぶ内戦と 2004 年のインド洋津波の被害を受けたスリランカ北部の女性たちが収入を得る手段として、各家庭で眠っている古着のサリーをリサイクルしてバッグや衣類などの縫製品を作って販売する「サリー・リサイクル事業」に 2012 年から取り組んでいます。

ゆうちょ財団が、2020 年 4 月から 2021 年 6 月までの間助成を行った活動では、縫製技術が未熟なために多様な縫製品を作れず、収入がほとんど得られない女性を対象に縫製研修を実施しました。

■支援活動：サリー・リサイクル事業に参加する女性の縫製技術向上研修及びフォローアップ活動

■実施地域：スリランカ 北部州ジャフナ県、ムライティブ県



(写真 1) サリーブラウス作りについての縫製研修



(写真2) 縫製研修で子供の採寸をするところ

イベントの状況

■開催日等

1. 開催日：2022 年 7 月 7 日（木）
2. 開催場所：オンライン
3. テーマ：「スリランカ経済危機：そこに暮らす人びとの今」
4. 講師：田村智子様（開発コンサルタント）、Britto Johny Ajith 様（元パルシックスリランカ北部地域代表）
5. 参加者：183 名
6. 内容：オンライン集会/現地からの報告

■講演の概要

1948 年の独立以来最大の経済危機に直面しているスリランカについて、現地に暮らす 2 人のスピーカーが日々目にしていることや感じていること、人びとから耳にしていることを報告し、一般の報道ではあまり伝えられない、経済危機によって大きな影響を受けている人びとの暮らしについて伝えること

を目的に開催されました。

最初のスピーカーの田村様からは、コロンボの状況、ここに至るまでの政治経済状況、社会背景、また都市部に暮らす人びとの生活についてご報告いただきました。政府の対外債務の推移、消費者物価指数などデータに裏付けられたマクロ面での社会経済の変化とともに、都市部に暮らす人びとが直面する困難、デモによる政府への抗議活動の状況などコロンボで日々起きていることについて詳細なご報告がありました。

つづいて、2人目のスピーカーの Ajith（アジット）様からは、経済的に脆弱な地域であり、ゆうちょ財団から助成を受けて縫製研修を実施したスリランカ北部の漁村、なかでも内陸部のムライティブ県タンニムリップ村の人びとの困窮する生活の状況についてお話しいただきました（写真3）。団体が長く活動してきた事業地で、アジット様も事業地の人びとと関係を培ってきたことから、状況を詳細に聞き取った結果のご報告でした。その中で、ゆうちょ財団の助成で2020年の新型コロナウイルス流行下において実施できたタンニムリップ村の女性たちへの研修の成果も伝えられました。

■参加者の感想

- ・現地の方の生の声が聞け、大変有意義な時間でした。
- ・スリランカの現状が想像以上に深刻であることが分かりました。未来のために、子どもたちへの教育がいち早く復活することを願います。
- ・ニュースでは一般論の報道が多く、また主にコロンボなどの都市住民の生活が紹介されていることが多いので、今回の講演会から細かな情報を把握することができました。
- ・国同士の支援、市民同士の支え合い、車の両輪だと思う。スリランカという国が大変だと報道されるとうも規模が大きすぎて何もできないような気になる。支援があると信じたい。
- ・スリランカの経済危機について詳しく知ることができました。自分が考えていたよりも深刻だった状況を詳しく教えてくださり、自分もこの状況を改善するために行動しようと思いました。現地の方のお話を聞いたのがとても良かったです。このような貴重な機会をありがとうございました。



（写真3） Ajith 様による現地報告の様子

特定非営利活動法人 パルシック

住所：〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-7-11 東洋ビル 1 階

URL：<https://www.parcic.org/>

助成した活動の概要

フィリピンにある人口 50 万人のイロイロ市は、大量の廃棄物・プラスチック等の資源ごみが路上や海岸に投機されています。環境意識を市民へ広めていくため、ごみ処理場コミュニティ出身の若者を中心に、リーダーシップトレーニングや環境教育を実施し、社会を変えていけるユースリーダーを育成しています。こうした活動に対し、ゆうちょ財団は、2022 年度から 1 年間助成を行いました。

■支援活動：資源循環社会の形成に向けたごみ処理場コミュニティのユースリーダー能力強化

■実施地域：フィリピン 西ピサヤ地方イロイロ州イロイロ市



(写真 1) ユースリーダー研修の参加者たち



(写真 2) ユースリーダー研修の参加者たちによるディスカッションの様子

イベントの状況

■開催日等

1. 開催日：2022 年 7 月 9 日（土）
2. 開催場所：JICA 地球のひろば（東京都新宿区市谷本村町 10-5（JICA 市ヶ谷ビル内））
3. テーマ：「LOOB 現地報告会～ごみ処理場コミュニティのユースリーダー能力強化～」
4. 講師：特定非営利活動法人 LOOB JAPAN 代表理事 小林幸恵
5. 参加者：29 名
6. 内容：①講演会、②交流会、③フェアトレード（※）製品の展示販売、④活動写真のパネル展示

※：Fair Trade(公平貿易)。開発途上国でつくられた農作物や製品を生産者の労働や生産に見合った適正な価格で継続的に取引することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組み。

■講演概要

- ①講演会『LOOB 現地報告会～ごみ処理場コミュニティのユースリーダー能力強化～』

本助成プログラム採択事業『ごみ処理場コミュニティのユースリーダー能力強化』においての現地活動の中間報告を目的として講演会が開催されました。特にゼロ・ウェイスト社会に向けた現地ユース活動やその他現地の活動について、LOOB JAPAN 代表理事小林様よりお話いただきました。



(写真 3) LOOB JAPAN 代表理事小林様による講演の様様



(写真 4) フェアトレード製品の展示販売の様様

②交流会

当日の来場者には、

- ・はじめて LOOB を知る方
- ・オンラインプログラムへの参加者
- ・LOOB JAPAN 国内活動の参加者
- ・フィリピン現地スタディツアー、ワークキャンプなどの参加者

など、様々な関係性を持った方にご参加いただきました。来場者同士の親睦を深めることを目的とした交流会を実施し、LOOB のファンコミュニティの横のつながりの強化につながりました。

③フェアトレード製品の展示販売、活動展示

LOOB が取り組む「ごみはポップな宝物」事業のフェアトレード製品を中心に展示販売が行われました。また、活動写真をパネル展示し、本会の前後や交流会時にご覧いただき、本事業に関して理解を深めていただきました。

■参加者の感想

- ・マニラのスモークーマウンテンのことしか知らず参加しましたが、イロイロ市の状況をはじめ大変多くのことを学ぶことができました。
- ・LOOB の活動を通して将来に希望を持てる子どもがたくさん増えるといいと思いました。リサイクルに対する意識を変えるには、時間がかかると思いますが応援しています。
- ・ディスカッションなどで色々な角度から一つの問題が掘り下げられて面白かった。
- ・久しぶりに LOOB のイベントに参加できて嬉しかったです！現地で今も活動を続けている人のリアルな声を聞けて良かった。
- ・LOOB のことは以前から知っていたが、現地に根付いている NGO であるため、現地のリアルを反映した内容になっており、とても勉強になった。

特定非営利活動法人 LOOB JAPAN

住所: 〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1 丁目 24-4 井川ビル 2 階 ソーシャルビジネスラボ

URL: <https://www.loobinc.com/>

2022年度NGO講演会等の助成アンケート集計結果報告書

【全体:77名回答】

Q1：開発途上国への支援については、国同士が行っているほかに、本日の講演会等のようにボランティア団体（NGO）が住民等を対象とした支援・援助を行っていることを知っていましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	知っていた	68	88%
2	知らなかった	9	12%
3	未回答	0	0%

Q2：今日の講演を聞いて、内容について理解できましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	よく理解できた	62	81%
2	まあ理解できた	13	17%
3	理解できなかった	0	0%
4	未回答	2	3%

Q3：今後もいろいろなボランティア団体が開発途上国の住民等へ支援・援助することは必要だと思いますか。

回 答 内 容		回答数	%
1	必要だと思う	75	97%
2	国同士で行うだけで十分	0	0%
3	分からない	1	1%
4	未回答	1	1%

Q4：今日の講演を聞いて、また「現地からの報告」を聞いてみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	聞きたいと思う	73	95%
2	少し思う	1	1%
3	全く思わない	0	0%
4	未回答	3	4%

Q5：今日の講演を聞いて、ボランティア活動に参加してみたいと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	すでにしている	48	62%
2	したいと思う	27	35%
3	特に思わない	1	1%
4	未回答	1	1%

Q6：今後もボランティア団体のこのような講演会を支援する助成活動は必要だと思いましたか。

回 答 内 容		回答数	%
1	とても必要だと思う	63	82%
2	必要だと思う	12	16%
3	特に思わない	0	0%
4	未回答	2	3%

年 代 別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答
	47%	9%	19%	9%	8%	4%	1%	3%

男 女 比	男性	女性	未回答
	23%	75%	3%